

農業技術情報

令和5年9月20日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A 幕別町	0155- 54-4118
J A 札内	56-2131
J A 帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町9月15日）（ ）内は平年値

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
馬鈴しょ	—	収穫始 8/21(8/26) 収穫期 9/9 (9/9)	
大豆	早 12	莖長 82.5 (79.4)cm 葉数 9.8 (9.9)枚 莢数 669.0 (601.7)個/m ²	
小豆	早 13	莖長 81.0 (59.5)cm 葉数 12.4 (11.7)枚 莢数 387.1 (350.0)個/m ²	成熟期 9/8(9/21)
菜豆（金時）		収穫期 9/7 (9/15) 収穫終 9/16 (9/26)	成熟期 8/27(9/5)
てんさい(移植)	早 4	根周 43.0(39.7)cm	
てんさい(直播)	早 6	根周 35.2(30.0)cm	
牧草	早 4	草丈 91.2(89.3)cm 収穫終 9/7(9/20)	
飼料用とうもろこし	早 15	稈長 283.8(275.9)cm 収穫始 9/6(9/13)	黄熟期 8/31(9/15)
ながいも(マルチ)	± 0	莖葉重 870.0 (617.1)g 調整長 59.7 (53.9)cm いも重 1181.8(1139.7)g いも径 63.4 (65.9)mm 乾物率 8.7 (11.3) %	

畑作

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

<秋まき小麦>

越冬前の十分な生育量を確保するため、適正な種床の準備、適期は種、適正は種量を心がけましょう。

は種前に額縁明きょや心土破碎など、排水対策を行いましょう。

1 は種（は種時期・は種量）

小麦の‘主莖葉数4～6枚が確保できる時期’で140～255株/m²を基本とし、は種時期の早晩により、は種粒数を増減します(表1)。また、出芽率が低いほ場では、適宜は種量を増量します。

やむをえず遅まきとなった場合も、255粒/m²(下表では11.7kgまたは11.4kg)を上限とします。

表1 地帯別は種時期・は種量の目安

(単位:kg/10a)

観測地点	～ 9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3 ～
明倫	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	6.7	7.3	8.0	8.8	9.6	10.6	11.6	11.7	11.7	11.7
相川	6.4	6.4	6.4	6.4	6.6	7.2	7.9	8.7	9.6	10.5	11.6	11.7	11.7	11.7	11.7
南勢	6.4	6.4	6.4	6.7	7.3	8.0	8.9	9.8	10.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7
糠内	6.4	6.7	7.4	8.0	8.8	9.7	10.8	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7
駒島	6.4	6.5	7.1	7.8	8.5	9.4	10.3	11.4	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7
帯広	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.7	7.3	8.0	8.7	9.7	10.8	11.4
日新	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.8	7.4	8.1	8.9	9.8	10.7	11.4	11.4	11.4	11.4

※ □内は「葉数5葉程度」、斜体は「6葉程度」、太字は「4葉程度」となるは種日を指す

※積算気温に基づくは種時期は各地点 2013～2022 の 10 年平均值に基づいて算出

※千粒重は本年幕別産 41.3g、札内産 40.3g、出芽率90%として計算

2 雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのはこの時期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壌処理を実施しましょう。

(除草剤例は9月5日の農業技術情報及び「農作物病虫害防除基準」を参照してください。)

3 連作となる場合の注意点

前作の収穫遅れなどやむをえず連作となる場合は、早めの決断、早めのほ場準備、可能な限り適期のは種、を行なうことにより越冬前の生育量を確保することが重要です。

また、前作の麦稈がほ場表面に露出している場合、雪腐病の感染源となるおそれがあります。耕起を行い、麦稈を地中にすき込むよう心がけ、適期に防除を実施し、越冬後は融雪促進に努めましょう。

ただし、条斑病・縞萎縮病など土壌病害が発生しているほ場の連作は避けましょう。

<てんさい>

1 収穫時・堆積時の注意点

(1) 収穫時の注意点

ア. 収穫作業は輸送計画に合わせ、適期に収穫しましょう。

イ. タッピングは切り過ぎないように調整しましょう。

ウ. 根腐症状個体を可能な限り取り除きましょう。

(2) 堆積時の注意点

収穫後は、必ずシートで被覆し、乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

2 次年度用育苗土の準備

病気の恐れのない健全な育苗土を準備し、pH 測定を実施し目標 pH 6.0～6.5 になるよう粉状炭カルにより酸度矯正をしましょう。

<豆 類>

登熟状況と天候を鑑み、適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

1 小豆の収穫

収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表2 小豆の収穫適期の目安 (H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	100% (子実水分 16～18%) 完熟期 (熟莢率 100%) から2週間以内	①汎用コンバイン(4条)～熟莢率 90%、 子実水分 25%程度 ②豆用コンバイン(2条)～熟莢率 80%、 子実水分 25%程度

2 大豆の収穫

(1) 汚粒対策

わい化病株や雑草(特に紫色の実をつけるイヌホオズキ)は、事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

(2) 収穫適期

刈り取り時期および時間帯も汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は子実水分が20%以下(最適は16%以下)の時とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。特に今年は生育が進んでいるため、適期収穫を心がけましょう。

(3) グリホサート系除草剤の収穫前使用(落葉終期～収穫14日前まで)について

収穫前に雑草を枯らし、汚粒防止や機械作業性を向上させる目的で国の登録はありますが、使用時期が狭く農薬が豆に残留しやすいことから、品質低下ならびに農薬の適用外使用となるリスクもあります。

このため、ホクレンでは令和2年産以降、収穫前使用した場合、JA の大豆共計では取り扱わないこととしています。

グリホサート系除草剤の収穫前使用にあたっては、受け入れ業者と確認の上散布の判断をして下さい。

<緑肥のすき込み>

緑肥のすき込みが遅れると、分解が遅れたり次年度以降に雑草化する場合があります。緑肥が結実する前(出穂または開花後7~10日を目安)で温度がある時期(遅くとも10月下旬まで)にすき込みましょう。

特に「ひまわり」は、花蕾に菌核病が発生することがあり、後作に「ばれいしょ」・「豆類」・「野菜類(白菜、キャベツ、レタス等)」を作付する場合は、開花前にすき込んでください。

<「緑肥用えんばくのいもち病」の対策について>

9月に入った頃から、町内全域で緑肥用えん麦が枯れる症状が散見されています。

町内のほ場からサンプルを採取し十勝農試で検定したところ、「緑肥用えんばくのいもち病(セイヨウチャヒキのいもち病)」であることがわかりました。

発病にはほ場間差がありますが、ひどいほ場では全面が枯れ上がっています。全体の傾向として、は種が早く生育量の大きいほ場や気温のより高い地区で発病が多いように見受けられます。

(病原菌) *Pyricularia oryzae*

(R5発生状況) 十勝全域で発生。後志でも発生。空知や上川では確認されていない。

(感染経路) 空気感染による。感染距離は定かではないが、これまで十勝で見られておらず越冬できないと考えられていたが、今年の発生量が多いことから、昨年から出ていることも推察される。

(好適条件) 湿度100%が6時間以上続く日が2~3日以上連続すると発生しやすい。

セイヨウチャヒキ(エン麦野生種)の方が、一般のえん麦より弱い。ただし、品種による。小麦に対しては非病原性である。

(対策) 発病が確認された段階で深めにすき込む

(空気感染であり、今回発生ほ場の近隣ほ場に影響が及ぶ可能性があり、次年度の発生リスクが考えられるため)

野菜

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

これまでの雨により肥料の流亡が懸念されます。葉菜類やだいこん、にんじんで、これまでに追肥を実施していない場合は、防除の際に液肥による葉面散布を検討してください。

<レタス>

菌核病は 15～16℃、べと病は8～15℃、灰色かび病は 15～20℃の多湿条件下で発生が助長されます。害虫はヨトウガやナモグリバエをはじめ、ほ場での発生状況に応じアブラムシ類の防除を実施してください。

表1 レタス病害の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	菌核 病	灰色 かび病	べと 病
パレード 20フロアブル	7	2,000～4,000	収穫前日	3回以内	○	○	
アフェットフロアブル	7	2,000	収穫前日	3回以内	○	○	
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内	○	○	○
スミレックス水和剤	2	1,000～2,000	収穫7日前	5回以内	○	○	
ダコニール 1000	M5	1,000	収穫14日前	3回以内		○	○

表2 レタス害虫の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用 濃度(倍)	使用時期	使用回数	ヨトウ	ナモグリ バエ	アブラ ムシ
アディオン乳剤	3A	2,000～3,000	収穫3日前	5回以内	○		○
アフーム乳剤	6	1,000～2,000	収穫3日前	3回以内		○	
コテツフロアブル	13	2,000	収穫前日	2回以内	○	○	
プレバゾンフロアブル	28	2,000	収穫前日	3回以内	○	○※1	
グレースシア乳剤	30	2,000～3,000	収穫3日前	2回以内	○	○	

※1 ハモグリバエ類での登録 1,000～2,000倍

<はくさい、キャベツ>

(1)害虫防除

モンシロチョウやコナガ、ヨトウガの発生状況を確認し引き続き適期防除を実施してください。

※薬剤については、「令和5年度農作物病害虫防除基準」を参照。

(2)菌核病・べと病の防除

菌核病やべと病は20℃前後の比較的低温の多湿条件下で発生が助長されます。気温が下がってきているため、雨が予想される場合は発生に注意してください。

(3)はくさいの黒斑病、白斑病の防除

黒斑病、白斑病は肥料切れによって発生が助長されます。降雨による肥料流亡が心配される場合は防除の際に、液肥の散布を検討してください。

表3 キャベツ病害の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度(倍)	使用時期	使用 回数	菌核 病	べと 病
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内	○	
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	2,000～3,000	収穫3日前	3回以内	○	
ダコニール 1000	M5	1,000	収穫14日前	2回以内		○
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫3日前	4回以内		○
レーバスフロアブル	40	2,000	収穫7日前	3回以内		○

表4 はくさい病害の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用 濃度(倍)	使用時期	使用 回数	菌核 病	べと 病	黒斑病 白斑病
パレード 20フロアブル	7	2,000~ 4,000	収穫前日	3回以内	○		○
アミスター20フロアブル※1	11	2,000	収穫7日前	4回以内		○	黒斑病(2,000) 白斑病 (2,000~3,000)
ストロビーフロアブル※1	11	3,000	収穫3日前	3回以内		○	○
ダコニール 1000※2	M5	1,000	収穫7日前	2回以内		○	○
プロポーズ顆粒水和剤※2	40/M5	1,000	収穫7日前	2回以内		○	○
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫3日前	4回以内		○	
レーバスフロアブル	40	2,000	収穫7日前	3回以内		○	

※1 アミスター、ストロビーは、結球前の散布および高温多湿条件下での散布を避ける。

※2 プロポーズ、ダコニールの茎葉散布は、合わせて2回まで。

<かぼちゃ>

収穫後はキュアリングを徹底し、品質向上に努めてください。

(1) 収穫時の注意点

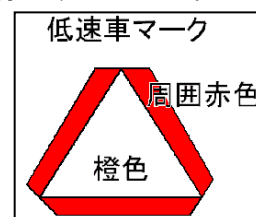
- ・外見上、品種特有の果皮色を呈し、花梗部にコルク状のひび割れが確認されてから収穫を開始してください。
- ・未熟果の混入防止のため、外観だけで判断せずに必ず試し割りを行い、果肉色および種子の稔実具合を確認して適熟果を収穫しましょう。
- ・収穫は、晴天日に朝露が乾いたことを確認してから行ってください。
- ・早期に茎葉が損傷したほ場では、日焼け果(日焼けにより果皮が白くなった障害果)の発生が懸念されます。収穫時期を迎えたら早めに収穫してください。また、日焼け果は腐敗しやすいので、分けて収穫してください。
- ・収穫時に打撲や傷が付かないように注意して作業を行ってください。

多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう!

作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”に注意

ばれいしょや豆類の収穫と小麦のは種作業が重なり、心身の疲労が心配されます。一層の事故防止に努めましょう。

- 1 トラクタ発進・PTO始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。
- 2 機械の調整・整備時(つまり物除去等)は必ずエンジンを止める。
- 3 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「固定脚」や「かませ木」を用い下降防止に努めます。
- 5 夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにします。



収穫残さのほ場焼却を避け、堆肥化しましょう

